

千葉県の特色・強み

千葉県は、全国有数の人口規模や経済規模を誇り、豊かな自然とバランスの取れた産業構造を有しています。当行グループは、優良なマーケットである千葉県を営業エリアとし、千葉県とともに安定的な成長を続けています。今後も千葉県のさらなる発展のために地域金融機関として役割を果たしていきます。

強み1 6百万人を超える人口と全国有数の経済規模

当行の主要な営業エリアである千葉県は、1873年に印旛県と木更津県の合併により誕生し、2023年6月15日に150周年を迎えました。温暖な気候と豊かな自然に恵まれた広い県土を有し、日本の経済成長とともに発展を続け、2023年3月末時点での人口は626万人と全国6位となっています。

また、千葉県の県民所得は19.2兆円で全国6位、県内総生産は21.2兆円で全国7位の水準にあり、全国有数の経済規模を有しています。



出所：千葉県総合企画部統計課「千葉県毎月常住人口調査月報」、総務省統計局「国勢調査」(2020年)、内閣府経済社会総合研究所「県民経済計算」(2019年度)を基に、千葉銀行にて作成

強み2 バランスの取れた産業構造

千葉県は、商工業、農業、水産業といずれも全国トップレベルの水準にあり、高い水準でバランスの取れた産業構造を有しています。

商工業では、東京湾岸沿いに石油精製・石油化学・鉄鋼などのコンビナートを有する「京葉工業地域」をはじめ、いくつもの工業団地が点在しているほか、「東葛テクノプラザ」、「かずさアカデミアパーク」などでは、産学官の連携による最先端の研究開発が進められています。

また、千葉県は全国有数の農業県でもあり、冬は暖かく夏は涼しい温暖な気候と、大消費地に近接した立地を活かし、県内各地で生産性の高い近郊農業が展開されています。また、三方を海に囲まれ豊かな漁場があり、水揚げ量全国1位の銚子港をはじめ、数々の漁港を有することから、漁業・養殖総生産量においても全国トップレベルの水準にあります。

これらに加え、東京ディズニーリゾートや、多くの海水浴場、南房総国定公園・水郷筑波国定公園などを有する観光地としても特色があり、各都道府県の中でも屈指の訪日外国人観光客数を誇っています。

千葉県の産業データ

第1次産業		第2次産業		第3次産業	
全国7位	0.1兆円	全国9位	5.0兆円	全国6位	15.9兆円

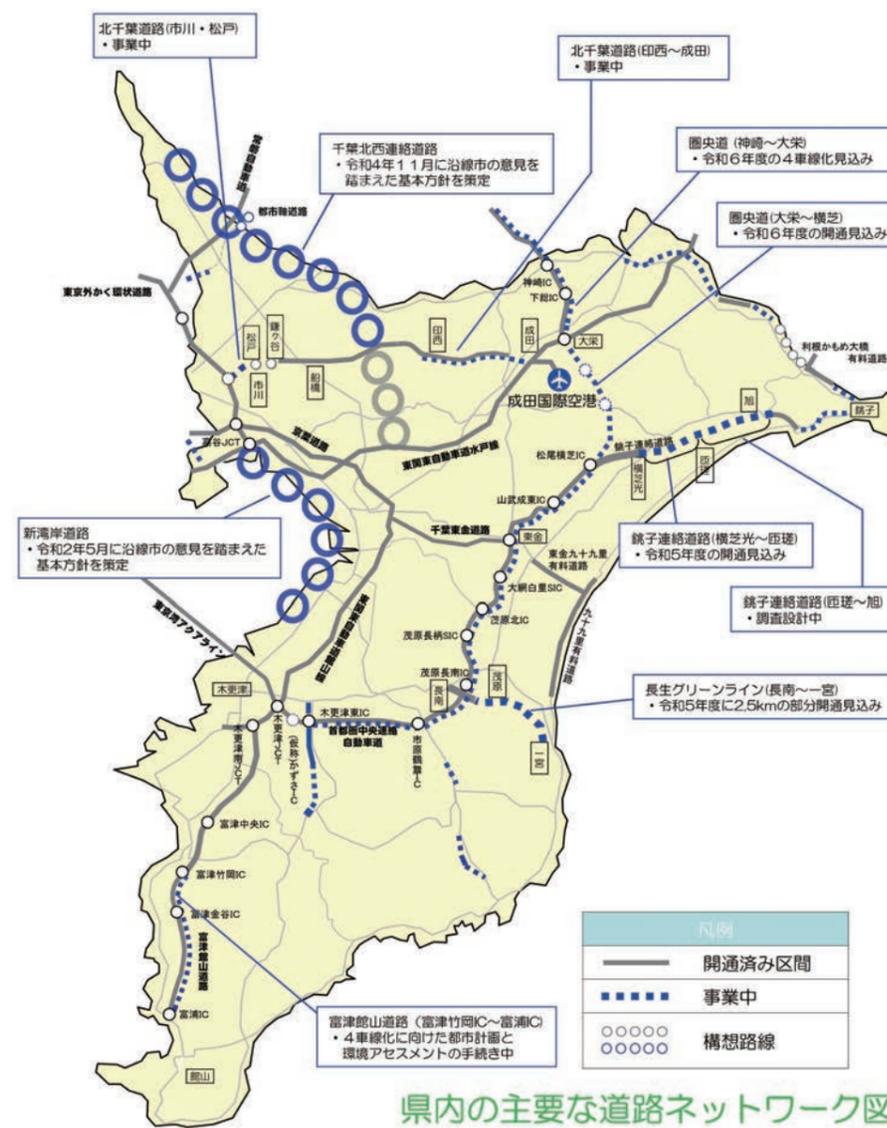
出所：内閣府経済社会総合研究所「県民経済計算」(2019年度)

強み3 経済成長における高いポテンシャル

千葉県は、経済の発展に欠かすことのできない公共インフラの整備も進んでいます。2024年度以降に全線開通を予定している圏央道に加え、北千葉道路、千葉北西連絡道路（千葉柏道路）等も開通に向けた計画が進んでいます。

また、2023年3月、JR京葉線の新習志野駅と海浜幕張駅の間に新駅「幕張豊砂駅」が開業したほか、成田国際空港においては、2028年度に第3滑走路の新設が予定されています。国内有数の貨物取扱量を誇る千葉港をはじめ、木更津港等の貿易港においても、機能拡充や災害対策に向けた投資が継続されています。

このように、さまざまな産業において高い水準を誇り、インフラ整備が進み経済成長における高いポテンシャルを有する千葉県は、当行グループの持続的成長を支える優良なマーケットとなっています。



県内の主要な道路ネットワーク図

2023年5月時点

千葉銀行グループのあゆみ

千葉銀行は、2023年3月に創立80周年を迎えました。地域金融機関として、お客さまのさまざまなニーズにお応えし、事業規模は拡大しています。今後も、千葉銀行グループは、地域とともに成長を続けていきます。

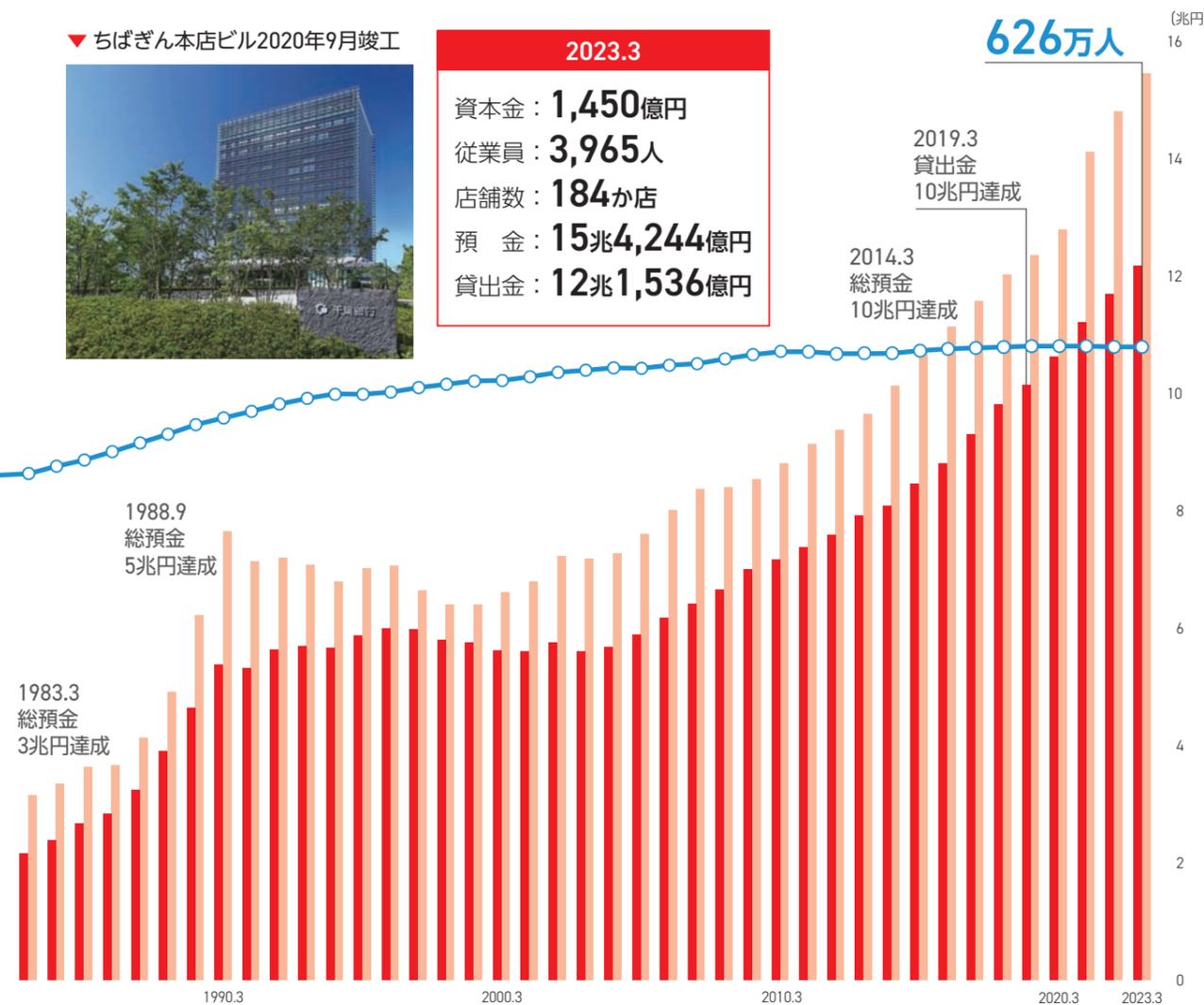


▼ ちばぎん本店ビル2020年9月竣工



2023.3

資本金：1,450億円
従業員：3,965人
店舗数：184か店
預金：15兆4,244億円
貸出金：12兆1,536億円



創立～

千葉銀行グループの変遷

1943.3 千葉合同銀行、小見川農商銀行、第九十八銀行の3行合併により千葉銀行設立

1960年代～

- 1960～ 高度経済成長を受け、預貸金が伸長
- 1964.2 「ひまわり」をバンクフラワーに制定
- 1970.10 東証第二部に上場（1971年8月に第一部に指定替）
- 1971.10 第一次オンラインシステム開始
- 1973.3 本店を千葉市中央から同市千葉港へ新築・移転

1980年代～

- 1986.10 全国初の女性支店長誕生
- 1987.4 ニューヨーク支店開設
- 1989.4 香港支店開設
- 1991.2 ロンドン支店開設
- 1995.11 上海駐在員事務所開設
- 1998.3 中央証券（現ちばぎん証券）をグループ会社化

2000年代～

- 2006.12 障がい者雇用特例子会社 ちばぎんハートフル設立
- 2008.3 TSUBASAプロジェクト発足
- 2011.3 シンガポール駐在員事務所開設
- 2014.9 バンコク駐在員事務所開設
- 2015.10 TSUBASAアライアンス発足
- 2016.3 千葉・武蔵野アライアンス発足
- 2016.5-9 グループ会社9社を ちばぎん幕張ビルに集約
- 2016.7 T&Iイノベーションセンター設立
- 2019.7 千葉・横浜パートナーシップ発足
- 2020.9 ちばぎん本店ビル竣工
- 2021.5 ちばぎん商店設立
- 2023.4 ひまわりグリーンエナジー設立



創立80周年記念事業

国道上部空間の整備・マルシェ開催

2023年5月、本店ビルに隣接する国道上部空間に、ベンチやウッドデッキを配置したほか、地面の一部に遮熱性の塗装を施し、地域住民の憩いの場として整備しました。また、同月に整備した空間でマルシェを開催しました。



▲ マルシェの様子

金融資料室・コワーキングスペース設置

2023年5月、本店ビルに「ちばぎん金融資料室（愛称：FinTERRACE）」及び「ちばぎんコワーキングスペース（愛称：PORT）」を設置しました。地域における金融教育の場、新事業創出の場として、活用していきます。



▲ ちばぎん金融資料室



▲ ちばぎんコワーキングスペース

千葉銀行グループの強み

強固な営業基盤

当行は、千葉県内を中心として、国内に184拠点、海外に6拠点の店舗ネットワークを有しています。国内拠点においては、千葉県に隣接する東京23区内に加え、茨城県、埼玉県に新規店舗を出店する一方で、既存店舗の統廃合や店舗機能の集約化を図り、お客さまとの接点を確保しながら、それぞれの地域のお客さまのニーズに合わせた最適な店舗サービスを提供しています。

また、海外拠点については、ニューヨーク、香港、ロンドンに支店を展開しているほか、アジア各地（上海、シンガポール、バンコク）にて駐在員事務所を構え、地銀としてはトップレベルの海外拠点網を有しています。

このような店舗ネットワークのもと、2万社を超える企業のメインバンクとして、お客さまの事業活動を支援しているほか、千葉県内の55自治体のうち、44自治体で指定金融機関となっているなど、主要な営業エリアである千葉県において、圧倒的なシェア（県内貸出金シェア41.0%、同預金シェア27.9%）を維持しています。

強固な事業基盤

国内拠点数^{*1} **184**拠点
 海外拠点数 **6**拠点
 支店：ニューヨーク、香港、ロンドン
 駐在員事務所：上海、シンガポール、バンコク

千葉県内貸出金シェア^{*2} **41.0%**
 千葉県内預金シェア^{*2} **27.9%**

指定金融機関の自治体数 **44**自治体 / 55自治体
 地方創生に関する連携協定を締結する自治体数 **25**自治体 / 55自治体

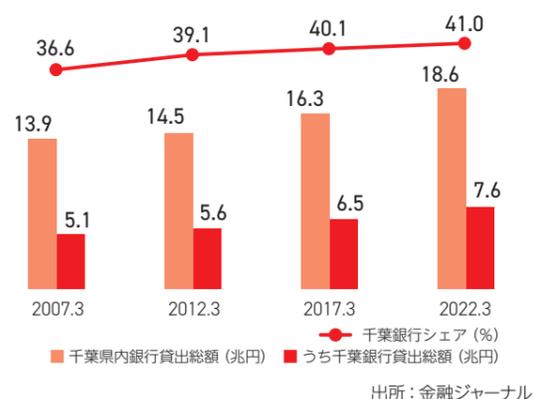
^{*1} 181店舗・3両替出張所
^{*2} 出所：金融ジャーナル、2022年3月末時点

厚みのあるお客さま基盤

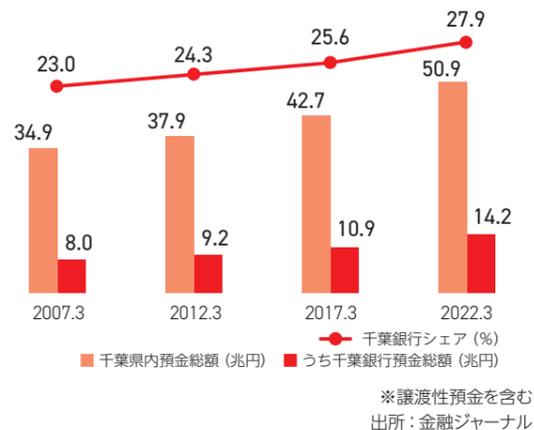
給振口座数 **86.4**万口座
 年金受取口座数 **49.4**万口座
 住宅ローン利用先 **20.5**万先
 当行をメインバンクとする企業数^{*} **2.1**万社

^{*} 出所：帝国データバンク
 (特に注記のないものについては、2023年3月末または2022年度実績)

千葉県内貸出金



千葉県内預金^{*}



強い財務基盤

当行の総資産（連結）は約19.8兆円、貸出金（単体）は12兆円を超えているほか、連結ベースの当期純利益（親会社株主に帰属する当期純利益）は602億円となっており、地方銀行の中でもトップクラスの資産規模と収益力を誇っています。

また、ROE（連結）は6.38%で、2期連続増加しているほか、OHR（単体）は47.73%と40%台後半の水準にあり、低い経費率は当行の大きな特徴となっています。安定したROEと低いOHRは、当行の効率的な事業運営を表しています。

総自己資本比率（連結）は、11.63%、普通株式等Tier1比率（連結）は11.54%、不良債権比率（単体）も0.93%と1%を下回るなど、財務面においても高い健全性を維持しています。

これらを反映して、格付評価機関による外部格付は、ムーディーズが「A1（長期）」、スタンダード&プアーズが「A-（長期）」、格付投資情報センターが「AA-（長期）」と、いずれも高い水準の格付を付与されています。

地銀トップクラスの資産規模

総資産（連結） **19兆7,878**億円
 貸出金（単体） **12兆1,536**億円
 預金（単体） **15兆4,244**億円

盤石な自己資本

総自己資本比率（連結） **11.63%**
 普通株式等Tier1比率（連結） **11.54%**

良好な格付^{*}

ムーディーズ **A1**（長期） **P-1**（短期）
 スタンダード&プアーズ **A-**（長期） **A-2**（短期）
 格付投資情報センター **AA-**（長期）

^{*} 2023年7月1日現在

地銀トップクラスの収益力

親会社株主に帰属する当期純利益（連結） **602**億円
 ROE（連結・株主資本ベース） **6.38%**

低い経費率

OHR（単体） **47.73%**

健全な貸出資産

不良債権比率（単体・金融再生法ベース） **0.93%**

価値創造プロセス

社会課題

ビジョン

パーパス

地域に寄り添う
エンゲージメントバンクグループ

一人ひとりの思いを、
もっと実現できる地域社会にする



エンゲージメント向上

企業価値の向上

社会的価値

金融機能を提供するなどの「機能的価値」に加え、地域の課題解決に貢献するなどの「社会的価値」を創出するために存在

地域の社会的課題解決

法人・自治体

個人



域内企業の持続的成長



所得の増加

共感できる価値観の提供
||
ファンを増やす



雇用創出



消費の活性化など

豊かなライフスタイル

職員 やりがい・報酬

投資家 配当

変化する時代の中で、地域を「ステークホルダーの思いが叶う場所」へ

SDGs達成への貢献
持続可能な社会の実現

